

# ねじ締め、追求の半世紀

ハイオス



戸津勝行社長(研究室で)



小型協働ロボットによる締結システム

「ねじバカおやじ」戸津社長の挑戦

戸津社長が自身を「ねじバカおやじ」と自ら評する言葉の奥には、誰よりもねじ締めを追求してきた自負が隠れています。戸津社長は、ねじにガイドを設けた

「ねじ締めのデジタル化」がいよいよ本格化する。周年を迎えた。自動化・IoT時代を迎えて、戸津社長が半世紀追求してきた「ねじ締めのデジタル化」がいよいよ本格化する。

## インタトルクで自動化に適応

## 見えてきた「デジタル化」時代

「トヅねじ」と、これまで主張した空圧式に替わる電動ドライバーを開発して、同社の前身となる戸津研究所を設立。世界に先駆けて開発された電流制御のドライバーは、ねじ締めを曖昧な感覚から、工業製品を量産するための数値(デジタル)に基づく精密な作業へとシフトさせた。

「当時「デジタル」と

「トヅねじ」や、その後開発される「ソブロね

タをメーカーは画面に指

思つ。電動ドライバーに

よりトルク値などのデ

ータをメーカーは画面に指

思つ。電動ドライバーに